

キュンとする子どもの居場所プロジェクト
(子ども向けワークショップ)
実施報告書

令和7年9月

藤沢市

目 次

第1章	ワークショップの開催概要.....	1
1	目的.....	1
2	開催タイトル.....	1
3	対象者.....	1
4	申し込み状況.....	1
5	参加者.....	1
6	開催日時.....	1
7	開催場所.....	1
第2章	ワークショップ実施報告.....	2
1	開催の流れ.....	2
2	実施報告.....	4
3	子どもが考える理想の居場所と実現可能な居場所との隔たり	10
参考資料	14
1	参加者募集チラシ	14
2	参加者アンケート調査結果	エラー! ブックマークが定義されていません。

第1章 ワークショップの開催概要

1 目的

- 子どもの意見を大切にしたい子どもの居場所づくりが必要であることを発信する。
- 「(仮称) 第2期藤沢市子どもの居場所づくり推進計画」の策定・推進に向けて、子どもが考える藤沢市の子どもの居場所における課題を把握及び意見を聴取する。
- 計画の意義(目指す方向)を実現するために、理想の子どもの居場所を検討してもらうとともに、子どもが考える理想の居場所と、制約条件(大人側の事情)を課した上での実現可能な居場所との隔たりを探る。

2 開催タイトル

- キyunとする子どもの居場所プロジェクト

3 対象者

- 概ね9歳～18歳
- このワークショップに興味を持ってくれた人

4 開催日時

- 8月21日(木) 市民会館 午後2時～4時
- 8月22日(金) 市民会館 午前10時～正午

5 開催場所

- 藤沢市民会館

6 申し込み状況

- 28名
- ※事前申込制(e-kanagawa 使用)
- ※募集スケジュール: 令和7年7月20日(日)～8月11日(月)
- ※7月25日号広報ふじさわ、すぐーる(7月小学校長会、7月中学校長会)、市の公式LINE等を通して告知した。

7 参加者数

- 8月21日(木) 市民会館 午後2時～4時
参加者: 15名、大学生インターン(ファシリテーター): 6名
- 8月22日(金) 市民会館 午前10時～正午
参加者: 34名、大学生インターン(ファシリテーター): 6名
- 両日とも協力・監修者: ボードゲームでツナグ手(ボドツナ)代表 長山 陽司

第2章 ワークショップ実施報告

1 開催の流れ

○ワークショップのスケジュールは、以下のとおり。

21日 (木)	22日 (金)	所要時間 (分)	活動	活動の説明
13:40 ～14:00	9:40 ～10:00	0:20	【開場】	受付・名札記入・座席案内
14:00 ～ 14:02	10:00 ～ 10:02	0:02	はじめのあいさつ	ワークショップについての説明
14:02 ～ 14:07	10:02 ～ 10:07	0:05	子どもの居場所 について	居場所の説明
14:07 ～ 14:12	10:07 ～ 10:17	0:10	アイスブレイク・ 自己紹介	自己紹介&雑談タイム おかしとかを食べてもよい シートに沿ってメモ
14:12 ～ 14:14	10:17 ～ 10:19	0:02	ワークショップ 理想の子どもの居場所 づくりゲーム	全体進行（創建）からゲーム進行（長山 さん）に切り替え
14:14 ～ 14:19	10:19 ～ 10:24	0:05	セクション1	個人の欲しい施設選定 用紙は回収したい
14:19 ～ 14:34	10:24 ～ 10:39	0:15	セクション2 理想の居場所設計編	グループのみんなで1つの理想の子ど もの居場所を作成する。
14:34 ～ 14:44	10:39 ～ 10:49	0:10	理想の居場所 発表タイム	①理想の居場所の名前 ②居場所の工夫したところ ③一押しの施設など1～2分程度でよ い。各班理想の居場所のボードを持っ て前で発表。
14:44 ～ 14:49	10:49 ～ 10:54	0:05	休憩時間	理想の居場所は崩さないように案内
14:49 ～ 15:19	10:54 ～ 11:24	0:30	セクション3 現実の居場所づくり編	制限を守ってみんなで理想の居場所を 作成する。
15:19 ～ 15:20	11:24 ～ 11:25	0:01	セクション4 まとめのじかん	
15:20 ～ 15:25	11:25 ～ 11:30	0:05	話し合い	基本的には、発表用紙に沿った形で意 見を集める。無理に軌道修正をする必 要はない、グループの意見を大切にま とめる。
15:25 ～ 15:55	11:30 ～ 12:00	0:30	発表	各班最大5分 理想の居場所は前に投影する。 現実の居場所は持って発表。
15:55 ～ 16:00	12:00 ～ 12:05	0:05	おわりのあいさつ	
16:00 ～ 16:05	12:05 ～ 12:10	0:05	閉会のアナウンス	・閉会のアナウンス、ゴミ、名札テープ 回収の案内など ・片付けなど



(当日の様子)

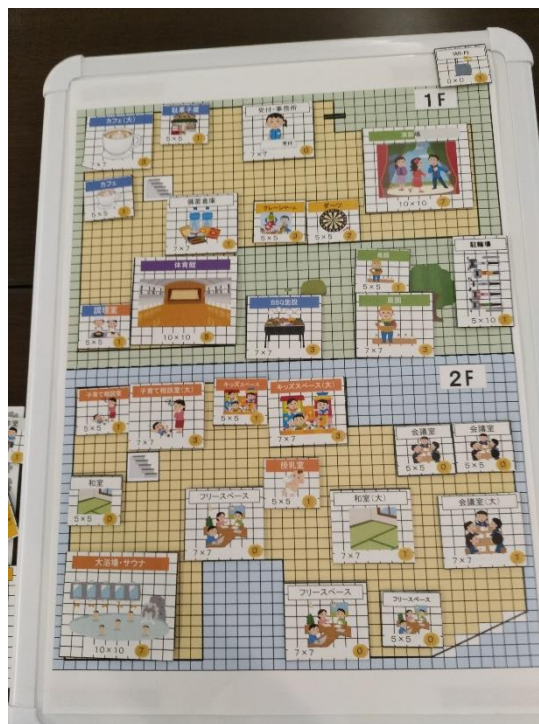
2 実施報告

(1) 8月21日 (木)

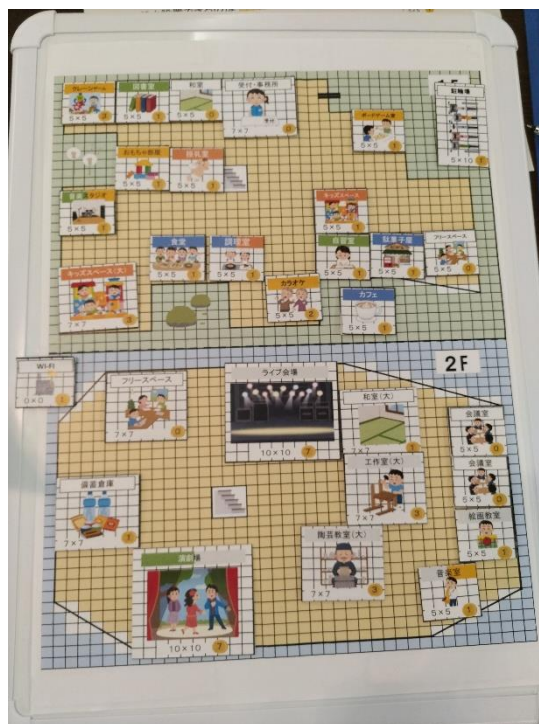
○6グループに分かれ、居場所づくりのボードゲームを用いて、ワークショップを行った。

(左：理想の居場所、右：制約付き居場所)

【A グループ】



【B グループ】



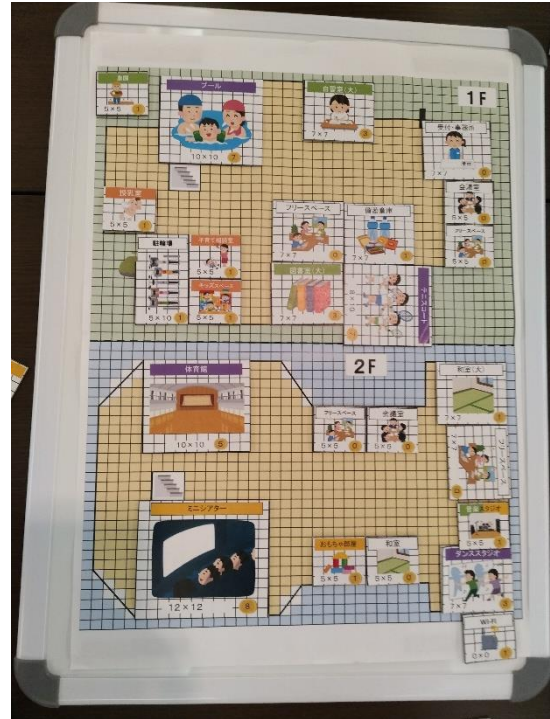
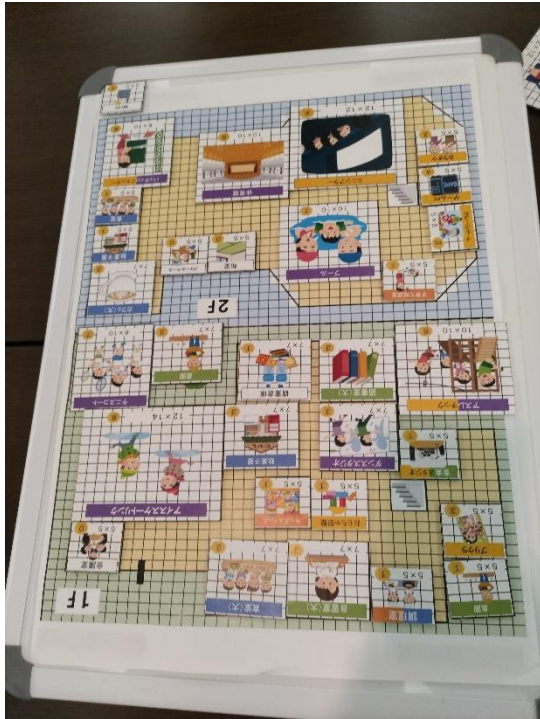
【C グループ】



【D グループ】



【E グループ】



【F グループ】



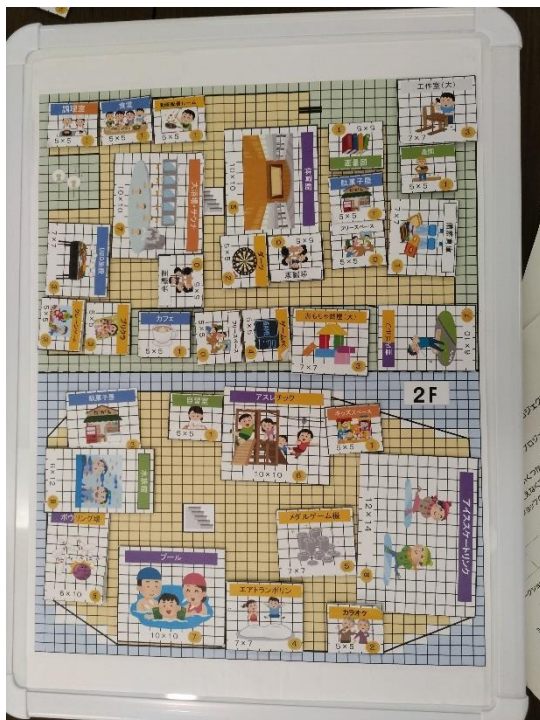
(2) 8月22日 (金)

○6グループにわかれて、ワークショップを行った。

【Aグループ】



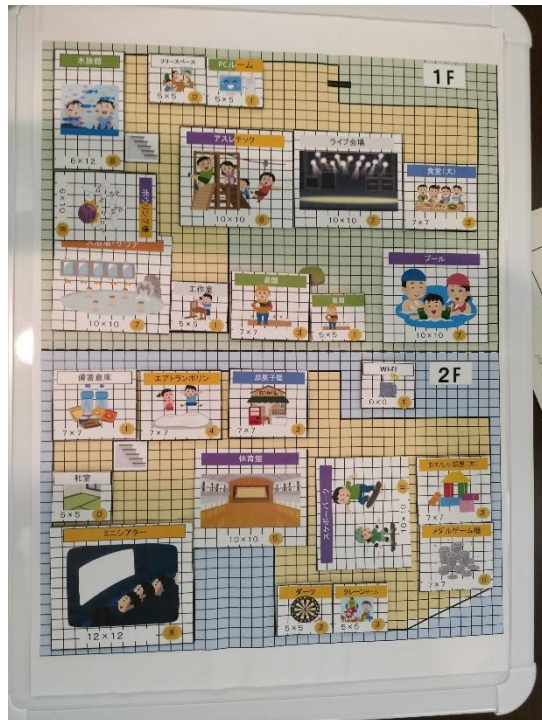
【Bグループ】



【C グループ】



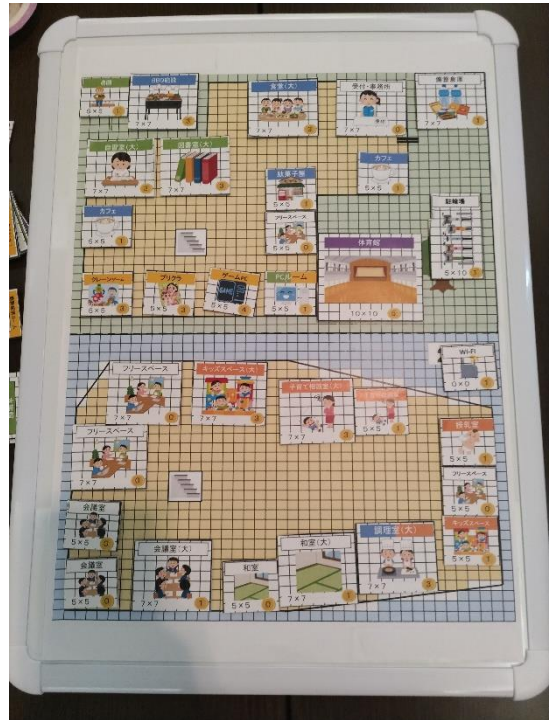
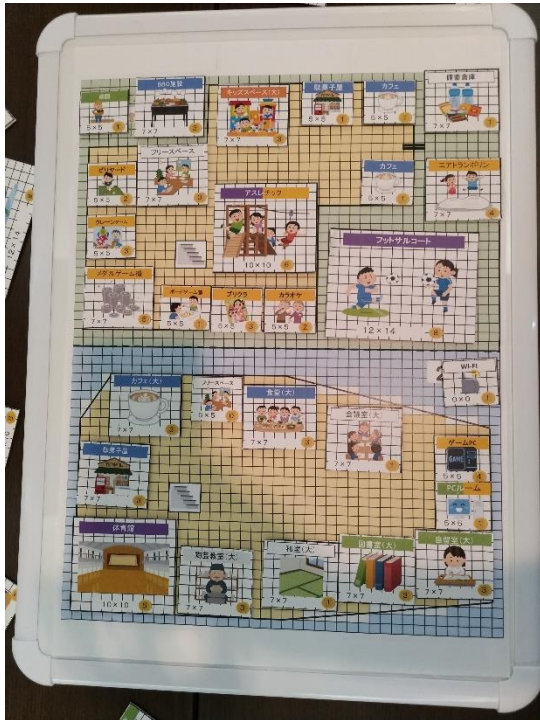
【D グループ】



【E グループ】



【F グループ】



3 子どもが考える理想の居場所と実現可能な居場所との隔たり

(1) 主な隔たり、変更点

①8月21日(木)

【A グループ】

- 理想は、やりたいこと、楽しいこと、やってみたいことを盛りだくさんにした。
- 大人の事情は、安全面から運動施設は1つのみ、倉庫・体育館を設置する、2階は子育て施設と多目的室のみだった。
- 大人の事情に対しては、楽しくない、面白くないという率直な意見が出された。一番置きたいプールが置けなくなり、悲しい気持ちになった。
- 【グループ内で子どもと一緒に参加した保護者の意見】2階には、授乳室、キッズスペース、子育て相談室等を設け、未就学児の保護者には十分な空間だが、小学生の保護者からすると卒業した空間と感じてしまった。

【B グループ】

- 最初は、大型のスポーツ施設やアミューズメント施設を入れた。
- 大人の事情は、余計のお金は使わない、バリアフリーの施設にする、2階は静かに使ってほしいというもの。
- 現実には、スポーツ系の施設が少なく、子どもにとって嬉しくない、楽しくない施設になってしまった。
- 大人の事情として、3つの条件は多いと感じるという意見が出された。予算の制限とバリアフリーによる空間の制限が厳しい点が、楽しくない施設になってしまった大きな要因だと思う。
- 現実の居場所をより良くするためのアイデアとしては、買い物やお土産を購入できる場所があると良いのではないかという意見が出された。

【C グループ】

- 理想は、楽しいことを詰め込んだ居場所だった。
- 大人の事情は、ガラの悪い人が来るかもしれない、お年寄りも使える施設にしてほしい、2階は静かに使ってほしいで、結構、制限がかかってしまった。
- 現実には、遊び場が1つしか作れず、楽しいことを詰め込んだ理想の施設ではなくなってしまった。遊びがトランポリン1つだけになり、トランポリンが終わったら、ゆっくり休むだけの施設になってしまった。2階は物足りない、寂しい感じになってしまった。子どもが楽しむところがトランポリンしかないのも、子どもは1階にしか来ない施設になり、つまらなくなってしまったというのが率直な意見だった。
- 他のグループのように予算制限はなかったが、当初の条件の予算でも少し少なく感じた。
- どうすれば現実の居場所をより良くできるということで、1つだけではなく、もう少し遊び場が作れるように大人にお願いしたり、フリースペースを上手に使えるように工夫すれば、もう少し楽しめるようになる等の意見が出された。

【D グループ】

- 理想は、遊びと運動を重視した。
- 大人の事情で遊ぶ施設は1つだけになった。また、2階は静かに使って欲しいという施設長の要望から、芸術、多目的施設しか置くことができなくなった。市役所からの、お年寄りも使える施設にして欲しいという市役所からの要望により、大浴場と食堂を設置することになった。

【E グループ】

- 理想では、やりたいことをたくさん詰め込んだ居場所にした。飲食を2か所入れたのは、飲食の場は、憩いの場にもなるため。飲食するだけでなく、皆が触れ合い、寛ぐことができる。
- 大人の事情は、お金を使わない、バリアフリーに配慮する、飲食禁止。
- 飲食がなくなったのが結構大きかった。
- 理想と現実の居場所を比較すると、現実の居場所では面白みがなく、ありきたりで、どこにでもあるような施設になってしまった。
- 現実の居場所をより良くするためには、そもそも飲食禁止というのは、飲食をすると施設が汚れるということだと思うので、飲食スペースを狭くするとか、監視する人をつける等による汚れることを減らすことができるのではないかという意見が出された。
- 飲食がない現実の居場所をより魅力的にするために、珍しい施設・部屋を置くという意見が出された。例えば、ダンススタジオ等。他ではあまりない施設・部屋を設けることで、子どもの可能性を伸ばすことができると良いという意見が出された。
- プール、テニス、ダンス等、習い事に使える施設を多く置くことで、この施設に定期的に来る人を増やすことができるのではないかという意見が出された。

【F グループ】

- 理想の子どもの居場所では、遊びと食事を重視した。アイススケート、フットサルコート、アスレチック、飲食店、食堂、バーベキュー施設を入れて、子どもが楽しめる居場所をしていた。その他、キッズスペースや授乳室も入れ、子ども連れの親目線を考えた居場所をしていた。
- 大人の事情は、住民が子どもの声がうるさい、市役所はインクルーシブを意識したい、施設長は子育て支援に使いたい、だった。
- 外に施設を設置できなくなったのが大きかった。また、2階が、子育て施設や多目的室の2種類しか置けなくなったので、一気に遊びの要素がなくなった。
- 大人の事情は、かなり理不尽に感じた。また、大人の事情により、フットサルコートやアスレチック施設等、大きな遊びの施設がなくなったので、落ち着いた場所に変化した印象を持った。その分、広々とした間取りになった。プールや体育館といった、譲れない施設は残しつつ、コストはかかるが楽しめる施設を残した。
- 結果的には、運動、飲食、休憩のバランスが良い居場所になった。プールや体育館で遊び、おながすいたらごはんを食べ、その後お風呂に入り、和室や休憩スペースで休憩できる居場所になった。一日過ごせる居場所になったので充実していると思う。

②8月22日（金）

【A グループ】

- 理想の居場所では、自分たちが遊びたい施設を入れた。
- 制限として、備蓄倉庫と体育館を必ず設置する、が加わったことで、どんどん楽しい施設がなくなってしまった。大人の事情が1つなら、まだ遊ぶことができる施設だという印象がした。
- 予算の制限があり、外した施設も複数あった。
- 現実の居場所でも遊びたいと思うという意見が出された。

【B グループ】

- 最初はコインの数が108で、楽しさモリモリの施設だった。
- 大浴場を出た後、和室で休むことができる場所がおススメ。
- 大人の事情は、子どもの声がうるさい。2階なら声が響かないと思ったので、遊ぶ施設は2階に設置し、1階を休める施設にした。
- まだ遊びに行きたい施設になっている。

【C グループ】

- 理想は、やりたいことをたくさん入れて、勉強もできる施設にした。
- 大人の事情は、ガラの悪い人が来るかもしれない、バリアフリーにしたい、2階は子育て支援に使いたいだった。
- バリアフリーにしたいという制限に対しては、幅が広くなり、使いやすくなるので良いという意見が出された。ガラの悪い人が来るかもしれないということで、遊ぶ施設が1つしか置けなくなったのが辛かった。ガラの悪い人から子どもを守ってくれることは嬉しいが、遊ぶ施設が1つしか置けないのは辛かった。
- 理想と現実を比べると、静かになった。
- 最初のままだとガラの悪い人がたくさん施設だったかもしれないという意見が出された。

【D グループ】

- 理想は、アスレチックやプール、ミニシアター等、遊ぶ施設がたくさんあった。
- 大人の事情は、遊びの施設は1つのみ、飲食禁止。
- 大人の事情で、楽しくなくなってしまった。遊ぶ施設がたくさんあっても治安は悪くならないのではないか、子どもの意見を十分にきいてくれていないのではないかという意見が出された。
- 汚れるから飲食禁止というのは、子どもたちを信用していないのではないかという意見が出された。

【E グループ】

- 理想は、たくさんのアミューズメント施設を入れていた。
- 大人の事情は、予算制限、遊び施設・運動施設の制限、2階は芸術と多目的室のみ。
- 現実では、2階をほぼ入れ替えて、1階で楽しむ施設にした。

- 制限はあったが、譲れない施設は残すことができた。
- 授乳室、キッズスペース、子育て相談室は、小学生は使わないと思うが、他に使う人がいるのではないかとすることで残した。
- もう少し子どものことを思ってほしい、自分たちが感じたことを将来につなげていければ良いという意見が出された。

【F グループ】

- 理想は、1階に飲食店とゲームコーナーを設置して、2階を静かなスペースにした。屋外の施設も充実させることで、様々な世代が多目的に使用できる居場所にした。
- 大人の事情は、倉庫と体育館を設置する、2階を子育て支援に使いたい。
- 運動施設が1つで体育館を設置するというのが、結構大きな制約だった。1つだと遊ぶには不十分でわざわざ足を運ぶ気分にはならない、あまり遊ぶ気分にならずに大人の事情が強い施設になったという意見が出された。
- 子育て支援のスペースを作っても、保護者は、子ども遊ぶ施設に来る習慣がないから、来ないのではないかと意見が出された。
- 飲食は、あらゆる世代で必要な施設だと思う。遊びの施設が減らなければ良い施設だったと思う。

(2) ワークショップを行ったことから得た気づき

- 大人の事情で、現実はかなり厳しくはなったが、バランスの取れた居場所になったので、より良くするという視点では、子どもの視点だけではなく、大人の視点も大切だと思った。子どもの意見をより大切にして欲しいとは思いますが、大人の意見を入れてもバランスの良い施設にはなるので、よりこうした施設を、SNS等を通じて知ってもらうことが大事だと思う。
- 運動する時間が居場所にもなる。また、活動する中で生まれる関係性も居場所になる。制限があっても、色々と工夫することで、充実した居場所になると思う。
- 大人の事情には、納得できる面もある。大人の事情で、子ども向けだけでなく、幅広い世代向けの施設になったことは悪いことだとは思わない。子どもと高齢者が交流するきっかけとなる施設になることは良いことだと思う。大人が子どもの要望に十分に理解するとともに、施設を利用する子どもたちも大人な事情への理解・納得できる機会があると良い。
- プールや遊ぶ施設も大切だが、目的は多くあった方が、子どもたちは、遊んだり、学んだりできるのではないかな。
- 大人の事情は、施設の評価が下がらないように配慮していることという考え方もあった。

参考資料

1 参加者募集チラシ

「居たい」「行きたい」「やってみたい」
居場所を一緒に考えよう！

キュン とする

子どもの居場所プロジェクト

みんなの「居たい」「行きたい」「やってみたい」を大切にしたい子どもの居場所づくりを進めるために、
子どもの居場所を考えるワークショップをひらきます。
ゲーム形式で楽しく、みんなの理想の居場所について考えてみよう！どんなところが自分にとって、
みんなにとって、良い居場所になるか、アイデアを出し合って最高の居場所をつくろう！

8/21 木 **8/22 金** 藤沢市民会館 第2展示ホール
14:00 ~ 16:00 10:00 ~ 12:00 (※2日とも同じ内容です)

【対象】 おおむね9歳～18歳でこのワークショップに興味を持ってくれた人
【参加費】 無料 【定員】 各回30人
【参加方法】 事前申込制（参加にはお申込みが必要です。）お申込みはこちらから▶
【お問合せ】 藤沢市青少年課 e-mail fj-seisho@city.fujisawa.lg.jp
tel 0466-50-8251
【主催】 藤沢市 【協力】 非営利団体ボドツナ 代表 長山 陽司 氏



e-kanagawa

